芝蘭会報
第164号
発行所
社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail:info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主な内容

②退任教授あいさつ
③武田副会長ヘルシー・ソサエティ賞受賞
④校友会・KMS・FUNDだより
⑤支部だより 東京（京大健康科学フォーラム）
⑥支部だより 神戸・奈良・和歌山
⑤芝蘭会臨時総会と理事会・評議員会
⑥人事異動・会員訃報

芝蘭会会長　就任あいさつ

多様な人材の育成 必要

医学部長・医学研究科長　光山　正雄

芝蘭会会員の皆さまには益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年10月1日より医学研究科長・医学部長を拝命し、半年が過ぎましたが、その重責の実感を日々深めているところです。さらに、去る3月14日開催の芝蘭会理事会総会にて、塩田前会長の後任として芝蘭会会長を仰せつかることとなりました。任期中どうぞよろしくお願い申し上げます。

3月の理事会評議員会での各種議事終了後の懇談会で、「芝蘭会は同窓会であるけれど、京大医学部卒ではないが京大で勤務し、学んだ方々ももっと取り込んで活動することが望ましい」とのご意見を頂戴しました。京大医学部卒ではない私が同窓生の集まりである芝蘭会会長を務めさせていただくことに、正直一抹の不安を抱いておりましたが、このご発言には大変勇気づけられました。同窓か否かにこだわらず、京大に集う方々を大きく包もうとされる寛容さにも感激させられました。京大医学部に入学し、学んだという仲間意識は、もちろんこの組織の根底にある重要なものですが、他大学卒であっても同様に、京大医学研究科、京大病院で研究し勤務し、京大を愛し京大人である意識を身につけた、またはその過程にあった方々も、京大医学研究科・附属病院・関連病院機関にとって大変大きな力であります。残念ながら現教室員であっても他大学卒で芝蘭会に入会しておられない方も多くみられます。同窓生ではない遠慮もあるかと思われますので、今後は基礎系分野も含めて一人でも多くの皆さんに芝蘭会会員になっていただくべく働きかけをしていきたいと考えております。

さて、大学の法人化からはや5年が過ぎ、第一期中期計画の評価も進行しつつあります。独法化により確かに多少の自由度は増しましたが、一方で人件費も含めた運営交付金は毎年確実に減少の一途を辿っており、否応なしにさまざまな自助努力が要請されてきました。

医学研究科では、終了した2件の21世紀COE拠点形成事業に続いてグローバルCOE拠点形成事業が基礎・臨床をリンクした新たな発展への展望を開きつつあります。また、CKプロジェクトやAKプロジェクトを基盤とし、探索医療センター、ゲノム研究センター、EBMセンターなどを包括的に活用した二つのスーパー特区も始動しました。さらに、全学構想である世界トップレベルの国際研究拠点も建物が完成し、その活動が保証されることとなり、南部地区には来年2月竣工を目指してiPS細胞研究センター（CiRA）が建設中です。

CK、AKプロジェクトは、国の予算と特定企業出資金とのマッチングファンドによる新医療機材、新薬創出を明確な目標として活動しています が、明確なアウトカム提示はもちろん、医薬工連携体制および医工融合教育の基盤造りも強く要請されています。これらの大型外部資金や、スポンサードリサーチ、寄附講座などの仕組みで獲得される外部資金によって、慢性的に不足する教員ポストを特任教員として設置し、その数は50以上を数えるようになりました。特任教員には原則として年俸制が導入され、過渡期とはいえ、今後の医学研究科や病院における人員配置が変貌していく可能性が示唆されています。

独法化と同時期に開始された新医師臨床研修制度は、大学病院の診療科運営のみならず、医学研究科大学院入学者に大きな変化をもたらしてきました。それ以前に比較しますと、明らかに京大医学部卒業者の京大内部入局者が減少し、また医学部卒業後直ちに大学院（特に基礎系）に進学するものも少なくなり、ついに平成20、21年春と続けて0人となってしまいました。また大学院医学研究科博士課程志望者は、数年前までは50名を超す不合格者を出さざるを得ない競争でしたが、この2年はかろうじて定員を確保している状態です。

このような状況で、いくつかの対処すべき問題点が浮き彫りになっているかと思われます。一つは、卒業／内部入局／大学院進学・学位取得／教員（教官）採用、といった従来型キャリアパスの維持が困難になりつつあると同時に、卒業生が必ずしも従来のパスを理想的なものとは認識しなくなったことでしょう。

もう一つは、将来の医学研究を担う責務感が減少し、加えて、基礎的研究に昔ほどの強烈な魅力を感じる学生が減っているようにも思われます。試験管を振るのが研究といった時代は去り、高度な臨床研究や臨床に即した基礎的研究が要請され可能な時代となっています。パターンを固定化せず、われわれ教員もフレキシブルな考え方で、多様な人材を育成するシステムをさらに確立することが必要かと思います。

研修医数は多いにこしたことはありませんが、京大と関連病院で展開される高度先進医療、新世代医療への研究に、卒後数年たった卒業生が母校に戻って参加したいと感じてくれることが重要です。同時に、近未来から将来的な医学医療に資する深い基盤研究の必要性を実感させるスキルをわれわれが磨くことも必要になっています。トレンドにこだわらず、多様かつ個性ある独創的な研究が展開される医学研究科において、有能な学生がどれか一つでも自分の知的好奇心をそそるような機会をもっと与えることを考えていかなければなりません。幸いにも、成宮前医学研究科長が始められた1回生からの分野配属により、研究室へ定着する学生も少しずつ増えてきたようです。また、昨年、今年と1名ずつではありますが、MD／PhDコース進学者が出てきました。奨学金などの支援体制の確立をはかり、さらに一人でも二人でもそのような意気込みあふれる学生がでてくることを期待したいと思います。

研修医を中心とした学内人員の減少により、関連病院にも多々ご迷惑をおかけしているかと存じます。多少の時間はかかっても、京大医学部、医学研究科、附属病院に集う若者が芝蘭会という大きな組織の構成員の連携のもと、多彩な活動をしてくれるよう微力を尽くしてまいりたいと存じます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成21年春の叙勲

瑞宝中綬章

堀　幹夫（昭和27年薬卒）
元 岐阜薬科大学長

田中　清介（昭和30年卒）
近畿大学名誉教授

多村　憲（昭和30年薬卒）
元 新潟薬科大学長

琵琶湖畔で21年度新入生合宿

京都大学大学院医学研究科教授
医学教育推進センター長　平出　敦

芝蘭会の補助金支援のもと、本年度は、4月18日、19日に、快晴で陽光美しい琵琶湖畔で新入生合宿が行われた。この合宿は、平成21年度入学109名の新入生全員の参加を得て、光山正雄学部長、教育体制委員長の篠原隆司教授の出席のもと、医学教育推進センタースタッフにより運営された。

琵琶湖畔に集合した合宿参加者

「闘病記から学ぶ」で意見交換

「他者の立場考える」グループ発表や討論

本年度のテーマは、自分の主義や視点のみから考えるのではなく、他の人の立場や見方から考えることとした。

新入生の大部分は、もともと健康であり、家庭や学校の庇護のもとで、すくすくと成長して、自分と異なる人の立場に立って考えてみる機会が少ない。そこで、たとえば闘病記を読んで、健康を損なわれた方の立場から感じたり、考えたりするというのがその趣旨である。合宿までの期間に、全員が何らかの闘病記を見つけて感想をまとめ、当日にはこれらをもちよってディスカッションを行った。

グループ発表は、平出敦の支援のもと、メッセージ性の高い内容がコンパクトに報告され、多様な視点から〝闘病記から学ぶ〟の趣旨が提示された。闘病記を読んだあと、どんなことをしたら自分たちの成長をさらに実りあるものにすることができるだろうかという問いかけにも活発な意見交換が行われた。

実際の患者に接してみたいという発言も多く、今後、関係病院での外来患者支援実習や、京大病院での病棟での〝患者の語りを聞く〟の実践につなげていく予定である。合宿中には、車いすの扱いに慣れる、高齢者体験をするといった他者の立場を体感する試みを医学教育推進センタースタッフの窪田愛恵、高田香織の支援で行った。また、ブラインドウオークを関進の支援で実践した。

学生生活を考えるというテーマで、講師の森本剛、助教の作間未織のディスカッションリードでケースメソッドの試みも行った。ケースメソッドは、内容の深いケースをもとに学習者同士のディスカッションで思考のプロセスをみがいていく授業形態であり、多くの分野で定着しつつある。新入生の積極的で質の高い議論は予想を超えるものであった。学生たちからは、いままで経験したことがないスタイルの学びを知ることができたなどポジティブな評価がほとんどを占めていた。中には、一泊ではなく、もう二泊ほど続けてほしかった、学年が進行するごとに毎年、実施してほしいなどといったフィードバックもあった。

なお、教務・学生支援室からは、伊藤純、佐野浩介、福田尚子が泊まり込んだ。3人からは献身的なバックアップをいただいた。

真の健康創生に向けて

滋賀県立成人病センター総長・院長
（前医学研究科人間健康科学系専攻長　教授）　笹田　昌孝

平成21年3月末日に京都大学教授（人間健康科学）を辞し、4月1日より滋賀県立成人病センター総長・病院長に就任いたしました。

昭和45年に本学を卒業し、研修ののち血液病学の診療・研究の道を選びました。一言で言うなら「白血病を治したい」との思いでした。

第一内科に入れていただき、脇坂行一先生、内野治人先生には内科学・血液学を、中村徹先生には白血病の臨床と研究を、そして山口延男先生には血液形態学について神髄を教えていただきました。

当時白血病を治したいといくら思っても、急性白血病患者さんは診断後6カ月までに皆さん亡くなってしまう状況でした。その死因の多くは感染症です。「白血病を治したいなら感染症を何とかしないと」とある時、示すことを見出しました。

それ以来、好中球に魅せられて多くの先生方と好中球について基礎的臨床的研究を展開することとなりました。

留学を経て第一内科で臨床・教育・研究を続けている時、内野先生から京都大学医療技術短期大学部の教授に応募するお話をいただきました。

それから23年間、人材育成を基軸にして過ごすうちに「病気が本当に治るとは」さらに「人々に望ましい健康を創るには」について深く追究することとなりました。その結論は、これまで医学が追究してきたからだの健康とともにこころの健康を併せ持つことです。これを実現するため、医学をベースとしながら人文社会科学、看護学、検査技術学、リハビリテーション学等の医療学、そして工学・情報学等を駆使して「人間健康科学」を確立することであり、この理論確立、方法や技術の開発を経て実践へと展開することにより、真の健康創生につなげたいところです。

京都大学医学部にわが国初めての「人間健康科学科」が誕生し、平成19年には大学院修士課程、そして平成21年には博士課程が発足いたしました。時同じくして幸運にも学舎が全面改修され、個人のご寄附による研究棟が2棟建ちました。いよいよ坪山専攻長を中心に、本学にしかできない、本学こそやらねばならないことを具体化するため、本格的に始動する状況となりました。

芝蘭会の皆さまには今後ともさらなるご指導、ご支援を賜りたいと切にお願いする次第です。

私は4月から、自然に恵まれた滋賀県におきまして「のびのびとした子供たち、溌剌とした若者たち、そしていきいきとしたお年寄りの生活の創生」を、そしてそれにふさわしい医療を目指して滋賀県立成人病センターで再出発したいと考えています。

皆様方にはこちらの方もぜひご指導賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

退任あいさつ

京都大学と芝蘭会の発展を祈って

京都大学理事・副学長
（前医学研究科長・生体構造医学形態形成機構学教授）　塩田　浩平

私は平成21年3月末をもって医学研究科を辞し、京都大学理事・副学長（財務・産官学連携担当）に専念することになりました。

昭和40年に京都大学医学部に入学以来、国立遺伝学研究所と外国留学の計約4年間を除いて40年間もの永い年月を京都大学医学部と医学研究科で過ごすことができたのは、この上ない幸せであったと感謝しています。

このすぐれた環境の中で、多くの卓越した研究者ならびに優秀な学生諸君と共に充実した楽しい生活を送ることができました。

学生時代は学園紛争の影響で十分勉強したとは言えない6年半でしたが、研究者になってからの40年間は、分子生物学と先天異常学の研究を行いました。形態形成機構学分野では、個体発生について形態と分子レベルの現象を結びつける実験的研究を中心に行い、センター長を務めた先天異常標本解析センターでは、ヒトの正常および異常発生の解析を行い、世界で例のないヒト胚のMR撮像と形態発生データベースの構築にこぎ着けました。この間、学内と国内外の多くの研究者の協力を得ることができたことが大きな力になりました。今後は大学全体の運営に関わりますが、難問も多く、さまざまな局面で医学研究科の皆様のご協力をお願いしなくてはなりませんので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

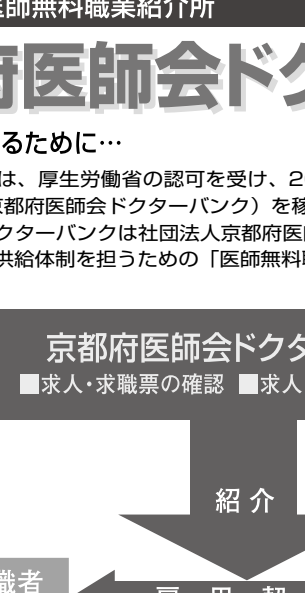
京都大学医学研究科・医学部は、百年を超える歴史の中で、優れた人材を輩出するサイクルがうまく機能し、常に世界と日本の医学界をリードしてきました。現在も他の模範となる優れた人事選考システムがあり、各研究者の日夜の精励によって多くの注目すべき研究成果が生み出されています。しかし、わが国の大学と医療界をとりまく情勢、社会の構造や価値観の変化は、必ずしも大学の将来に希望を抱かせるものばかりではありません。新しい時代の要請に機敏に対応しつつも、京都大学こそは、いつの時代にあっても真の学問を追究する人の集まる場であってほしいと思います。組織の中で多様性が尊重され、それぞれの分野でオンリーワンの研究が生まれることによって多くの若い人材が集まることを願っています。

これまでの数々のご厚誼に感謝するとともに、京都大学医学研究科・医学部と芝蘭会の更なる発展を祈念いたします。

ヘルシー・ソサエティ賞
武田 芝蘭会 副会長が受賞

この度、武田隆男芝蘭会副会長（武田病院グループ会長）が、長年にわたって地域医療に邁進し、教育活動などに尽くすなど社会貢献の高かった人をたたえる「第5回ヘルシー・ソサエティ賞」を受賞されました。

この賞は、ジョンソン・エンド・ジョンソングループと日本看護協会が2004年に創設したもので、学術・教育、医療、政府、ボランティア・市民活動などを通して、人々の健康や地域の保健、QOL（生活の質向上）に多大な貢献をした個人やリーダーに贈られるものです。推薦者には有馬朗人元文部大臣、日野原重明聖路加国際病院理事長らが当たっておられます。



武田副会長は、京都府全域で病気に苦しむ患者さんや、介助や介護を要する高齢者の方々への医療全般に対して、早くから高度先進医療の導入に努め、緊急性を要する救急医療体制の確立に多大な貢献を果たしたことが評価されたものです。

授賞式には500人の関係者が列席、皇太子さまも出席されました。

受賞者として記念杯を受け取った武田副会長は、「多くの人々の支援と協力のおかげで、名誉ある賞をいただくことができました。

今後も地域医療の発展と患者・家族の方々の健康増進のために尽くしてまいります」と述べておられました。

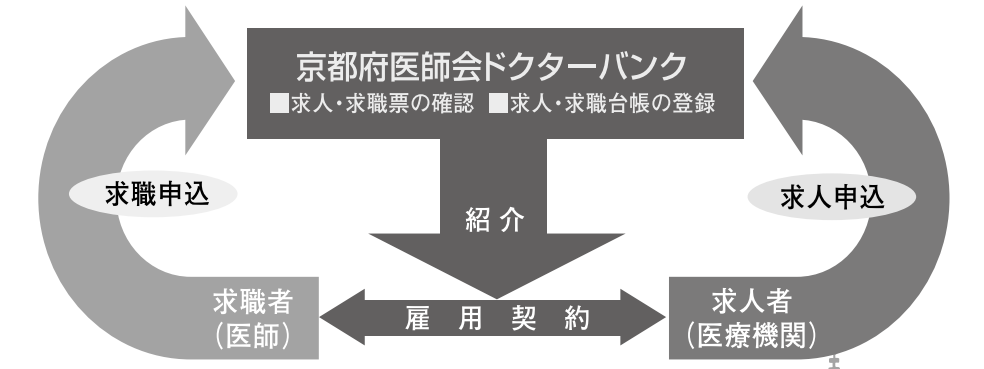
京都府医師会医師無料職業紹介所

京都府医師会ドクターバンク

京都の医療を守るために…

京都府医師会では、厚生労働省の認可を受け、2008年6月から「京都府医師会医師無料職業紹介所」（京都府医師会ドクターバンク）を稼働させました。

京都府医師会ドクターバンクは社団法人京都府医師会が独自に行う事業で、営利を目的とせず、適切な医療供給体制を担うための「医師無料職業紹介事業」です。



求人希望の医療機関には「求人票」を、求職希望の医師には「求職票」を関係書類を添えてご提出いただきます。
申請用紙は京都府医師会にお電話いただくか、ホームページからダウンロードしてください。

京都府医師会 医師無料職業紹介所
〒604-8585 京都市中京区壬生東高田町1−9　京都府医師会館内
TEL:075-312-3671　FAX:075-314-5042　E-Mail:dr-bank@kyoto.med.or.jp

【ご注意】

最近、芝蘭会員の方々へ芝蘭会員または京大医学部事務職員の名前をかたって、個人情報（住所、電話番号等）を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるということを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意下さいますようお願いいたします。

なお、芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合せは致しておりません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡下さい。

芝蘭会 事務局
TEL：075-751-2713　FAX：075-752-4015

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金（KMS・FUND）だより

事務局
〒606-8302
京都市左京区
吉田牛ノ宮町 11-1
芝蘭会館別館
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kms-fund @ office.
med.kyoto-u.ac.jp

大学と父兄 緊密な連携へ

校友会 第２回総会と講演会

平成19年3月に発足した京都大学医学部学生と医学研究科大学院生の父母らを中心とした「校友会」の「第2回総会・講演会が、五月晴れの5月3日（日・祝）午後1時から、芝蘭会館本館「稲盛ホール」において、校友会員１２０名、医学研究科教授25名の出席を得て、開催された。

総会は、増地公一医学研究科事務部長の司会で進められ、まず、土井趙校友会会長から国立大学法人化以降の大学の置かれている状況についての説明があり、続いて会員数の報告（4月30日現在で３９２名）、入学祝賀会や卒業祝賀会等の平成20年度の活動報告、同会計報告が行われ、これらの報告は、校友会会員の拍手によって了承された。また、土井会長からは校友会への協力要請も行われた。

次に、光山正雄医学研究科長・医学部長・芝蘭会会長から、大学と大学生を取り巻く環境の変化に伴い、大学と学生の父兄との緊密な連携を図ることが必要であるとのあいさつが行われた。

医学研究科・医学部で校友会を担当している中尾一和副医学研究科長からは、「校友会ならびに教育研究支援基金について」、医学部の使命や募金の寄附申込の状況について、優秀な研究を行った大学院生・研究生を表彰する制度を創設したこと（副賞として、基金の中から5万円の図書券が贈呈される）、学生会館のイメージ図（3階建て・一部4階建てで、30部室、学習室、ＫＭＳ・ＦＵＮＤ事務室など）が、出来上がり、今年中の着工を予定していることが報告された。

以上で医学部校友会の第2回総会は終了し、休憩の後、外科学講座教授上本伸二教授の司会で医学研究科4名の先生による講演会が開催された。

4先生の講演題目は、次の通りで、パワーポイントによるやさしく、かつ丁寧な講演であった。

《講演項目》

医学研究科長・光山正雄教授「京都大学医学部の歴史と使命」

分子遺伝学・篠原隆司教授「次世代生殖幹細胞：Germline Stem Cell の可能性」

呼吸器外科・伊達洋司教授「我が国の肺移植の現状」

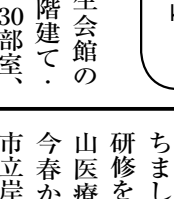
免疫・膠原病内科・三森経世教授「リウマチ治療の最前線」

校友会第２回総会会場

卒業記念祝賀会

社会への貢献を

校友会会員
小田 旨計



校友会事務局から何か記事を、との依頼を受けましたので拙文を記します。

息子が京都大学医学部を卒業してはや2年が経ちました。2年間の初期研修を日本赤十字社和歌山医療センターで終え、今春から小児科を専攻、市立岸和田市民病院で後期研修を開始いたしました。それぞれの病院及び各科では、京都大学医学部をご卒業された大先輩の先生方から多くのことをお教えいただき、その見識の高さに息子の話を聞くにつれ畏敬の念をいだいております。

医療に携わるには、人間性豊かな感性、深い洞察力、病めるものを救おうとする意思と情熱、など多くのことが求められ、単に知識を身につけるだけでなく、いかに社会へ貢献するかが大切であると思います。大学教育の中で、またその後の研修の中で培っていただくことを希望します。

現代の医療において工学技術との連携は欠くことができず、医学と工学の密接な関係の中から生まれた医療工学という分野に、かつて工業高校に勤務していた職業柄、私はかねてから興味を覚えていました。例えば人工腎臓の分野では、浄水器のフィルターにも用いられるような中空糸を毛細血管と組み合わせて透析を行うような研究開発が進んでいます。技術開発による経済再建を目指した「ものづくりニッポン」というスローガンが掲げられて久しく経ちますが、実際に日本の材料工学の技術は現在でも世界トップクラスの位置にあります。この技術がｉＰＳ細胞をはじめとする再生医療と結びついたとき、文字どおりの再生医療を可能にする絶大な効果を発揮するのではないかと一人楽しみにいたしております。第1回校友会設立総会では、水越様とご一緒に司会をさせていただき、多くの医学部教授の先生方、また保護者の方々と胸襟を開いてお話をすることができ、大変楽しいひとときを過ごさせていただきました。第2回校友会は、さらにたくさんの方々にご参加いただけますよう祈念しまして筆をおきます。

無限の生命観有した古代人

「万葉集と永遠」と題して講演する中西館長

奈良県立万葉文化館長 中西進氏が講演

4先生の講演後、中尾一和副研究科長による紹介を受け、稲盛ホールで奈良県立万葉文化館長の中西進先生の講演「万葉集と永遠」が行われた。

中西進先生は、アレキサンダー大王の「ゴルディオスの結び目」の伝説から古代とは永遠を所有している（知る）時代であり、万葉人の認識は、現実が永遠に続くということから話を始められた。四千五百余首所収する万葉集の中から「たまきはる」、「いのち」、「うつつ」、「かなし」、という言葉を引いて、それぞれいかに永遠につながっているかを説明され、万葉人は「二分型生命観」ではなく「対角線的生命観」を有しており、古代人は無限の生命観（生命の永遠）を有していた、と説明された。

最後には、現代人は永遠を信じているのか、現代人は生命力が衰えているのではないか、万葉人の持っている永遠なるものへの信頼を取り戻すことが必要であるとして講演を終わられた。その後の質疑応答にも丁寧にお答えをされ、中西進先生の流暢な語り口に、参加者は、しばしの間、万葉の世界に触れ、心地よい時を過ごした。

なお、後で万葉集を見てほしいとして次の三つの歌を挙げられた。

「たまきはる宇智（うち）の大野に馬並（な）めて朝踏ますらむその草深野」（巻一の4）

「直（ただ）に逢ひて見てばのみこそたまきはる命に向ふわが戀止（やま）め」（巻四の６７８）

「吾(あ)が戀は現在(まさか)も悲し草枕多胡(たご)の入野の将来(おく)も悲しも」（巻十四の３４０３）

和やかに卒業、入学の記念祝賀会

校友会主催

【卒業記念祝賀会】

平成20年度京都大学卒業式が3月24日(火)に京大総合体育館で挙行され、それに引き続き、医学部学士号授与式が芝蘭会館・稲盛ホールで行われた。

医学部長光山正雄教授からの祝辞、学士号授与の後、山内ホールにて校友会主催の「卒業記念祝賀会」が開催された。

参加者は光山医学部長、塩田副学長を含む教授11名、卒業生99名、父母など関係者１０５名のほか２２０名を超える盛大で和やかな祝賀会となった。

光山医学部長の祝辞と出席教授からの祝辞に引き続いて、土井趙校友会会長の乾杯の発声で祝賀会が始まった。

昨年と同様、京都大学オーケストラメンバーによる室内楽演奏の中、懇談の後、卒業生竹田淳恵さん、川本浩史さんからの謝辞、父母を代表して川村美星様、玉木長良様からの挨拶もあり、和服姿も見られる卒業記念祝賀会は、華やかな雰囲気の中で三森経世教授（臨床免疫学）による閉会の辞によりお開きとなった。

【入学記念祝賀会】

4月7日に京都市勧業館「みやこめっせ」で行われた平成21年度京都大学入学式の後、芝蘭会館本館・稲盛ホールにて新入生に対するガイダンスが行われた。その後、父母など関係者を交えての校友会主催の「入学記念祝賀会」が芝蘭会館本館・山内ホールで開催された。光山正雄医学部長や中村孝志附属病院長や出席された十数名の教授からの祝辞は、京都大学医学部におけるこれからの勉学や研究の取り組み、心構え、健康管理に至るまでさまざまなもので、励ましの言葉となった。

医学部教育研究支援基金（ＫＭＳ・ＦＵＮＤ）委員長の中尾一和教授から校友会とＫＭＳ・ＦＵＮＤの説明が行われた後、土井趙校友会会長の乾杯の発声で祝賀会が始まった。

祝賀会は、京都大学医学部音楽部の皆様による演奏の後、在学生の神崎優（４回生）さんと濱谷康弘（６回生）さんからの励ましのあいさつ、父母を代表して斎藤伊三雄様、荒井宏司様の挨拶、飛び入りのハンドベル演奏もあり、学生１０９名、父母などの関係者１３０名ほか２５０名を超える出席者で、大変にぎやかな会となり、中村孝志附属病院長の閉会の辞で終了した。

入学記念祝賀会

●支部だより

塩田副学長が報告
京都大学の動向やスーパー特区など
総会後に健康科学フォーラム

【東京】平成21年1月17日（土）、東京・学士会館において芝蘭会東京支部総会が開催されました。

総会は幹事である二木隆先生と大高道也先生の進行のもと、まず、日野原重明支部長のご挨拶から始まりました。日野原先生よりこの一年に亡くなられた7名の方々の名が告げられ、全員で黙祷しました。芝蘭会本部から塩田浩平副学長が出席され、京都大学の動向、スーパー特区などについて説明されました。

残すおそれのある腫瘍、また、ボリュームの大きな腫瘍に対する利用価値が注目されています。現在では、装置のサイズも以前の3分の1、コストもおよそ100億円に抑えられ、実用化が進められているそうです。

続く講演、国立国会図書館長の長尾真氏による「国立国会図書館について」も興味深いお話でした。現在、国立国会図書館の所蔵資料は3400万点にも上り、毎年30万～40万点の納本があるそうです。最近でいるそうです。

ところで、今回、実際に国立国会図書館を利用させていただいたのですが、その概観・内装だけでなく、蔵書検索のスムーズさと案内係さんの親切さに驚かされました。

両講演のより詳しい内容は、下欄に掲載させていただきましたので、ぜひお読みください。

フォーラム終了後、記念写真の撮影後、懇親会が開かれました。立食パーティーでしたので、私たちも数多くの先生方

総会の後、「第7回 京都大学健康科学フォーラム」が催されました。最初の講演は、独立行政法人放射線医学総合研究所理事長の米倉義晴先生による、「放射線医学の最新の進歩－分子イメージングから重粒子がん治療まで－」でした。

重粒子線は、生物効果が高く、ブラックピークという効果が最も顕著に現れる深度が存在するため、効果の有無の境界が明瞭で、他の組織を傷つけにくいという利点があります。特に外科手術では切除しにくい腫瘍、骨肉腫など切除後に障害を

はデジタル化も進められており、明治・大正期のほぼすべての図書が自宅で読め、戦後の国会会議録においてはそのすべてがデジタル文字化され、検索可能です。

また、OCR（光学式文字読み取り装置）で本をデジタル化すると、1ページあたり約10セントのコストがかかるそうです。そのデジタル文字化を利用してMillion Book Projectという、発展途上国に電池で稼働可能な100ドルパソコンを配布し、読書環境を整備するという、NPO的なProjectも行ってとお話させていただくことができました。

懇親会は昨秋、文化功労者の顕彰を受けられた長尾真先生のお祝いも兼ねて、談笑の絶えない和やかな雰囲気で進行し、ついには惜しまれながらのお開きとなりました。交流の意義を実感させられた半日でした。

終わりに、私たち学生を温かく迎え、多くを学ばせていただいたことに対し、心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。

（文責：4回生　武井玲生仁）

●支部だより

第７回 京都大学健康科学フォーラム　講演要旨

「国立国会図書館について」

国立国会図書館長（元京都大学総長）　長尾　真

著作権問題が大きな課題

国立国会図書館について

国立国会図書館は立法府に所属し、国会と行政・司法各部門及び国民に対するサービスを行っています。スタッフ約120名からなる調査及び立法考査局があり、年間4・5万件もの国会議員からの依頼調査に対応しています。東京本館の他に関西館、国際子ども図書館があり、定員908名、予算約220億円の組織であります。

国内の出版物は納本制度によってすべて納入され、年間受入件数は30～40万冊にのぼります。年間約60万人、一日平均約2000人近くもの来館者数があります。所蔵資料は約3400万点で、書籍だけでなく雑誌、新聞、CDなどにもわたります。ホームページでは国会サービス関連情報、資料の検索、電子図書館、電子展示会などがあり、とても魅力的なものとなっています。

国立国会図書館におけるデジタル化の現状

国会会議録（約290万ページ）はすべてデジタル文字化され、検索が可能です。帝国議会会議録はあと1年ですべての資料がデジタル画像データとして読むことができ、日本法令索引で明治19年以降のすべての法律、条約などが検索できます。また、国立国会図書館で所蔵する明治・大正期のほぼすべての図書がデジタル化され、貴重書（和漢書、錦絵、絵図、重要文化財など）はカラー画像で見ることができます。

資料のデジタル化の問題点は、著作権のある図書のデジタル化は著作権者の許諾が必要であり、著作権者を探し出すのに時間と費用がかかります。また、著作権者不明の図書が多いのも問題点です。最近の出版物はデジタルデータから作られるので、デジタルデータを出版物とともに納入（電子納本）してもらうと効率的ですが、一方で出版社にとっては打撃なので許諾を得にくいのが現状です。各国の国立図書館におけるデジタルアーカイブの現状について、例えばアメリカでは約14000万点の規模があり、フェアユースで許される範囲のものが所蔵されています。著作権者の問題は世界共通ですが、特に日本はシビアだそうです。

グローバルなデジタル図書館活動

World Digital Libraryは米国議会図書館とUNESCO主導のもとに行われ、文化遺産中心にデジタル化が進められています。

Million Book Projectは世界各国の著作権の切れた本をデジタル化するもので、発展途上国に100ドルコンピュータを配布し、読書環境を整備する目的があります。EUデジタルライブラリーは、欧州各国の文化遺産をデジタル化して公開し、デジタル情報・知識を基盤とする経済社会の構築を目指しています。

インターネットアーカイビングと情報流通

インターネット上には電子雑誌、ケータイ小説など紙に印刷されていないborn-digital情報が存在します。しかし、それらはどんどん開設されるとともに消えていくものも多いため、それらを国の文化財として保存・活用することを目的として国立国会図書館では2003年からWeb Archiving Project（WARP）が始められ、現在約2100サイトのWeb情報と、約1500タイトルの電子雑誌の収集が行われています。

世界中の情報を整理し世界中の人に提供しようとするGoogleの出現は、世界の国立図書館に衝撃を与えました。しかし、100年後にも確実に保存するためには、国立図書館がデジタル図書館としての役割を担わなければなりません。

今後の国会国立図書館の目標

今日の出版物は、かならずデジタルデータを経て出版されていますが、それをすべて納本してもらい電子図書館化できるとありがたいが、新刊書は売れず出版社は打撃をこうむるために許諾を得にくいのが現状です。また、現在は著作権によってデジタル化や図書館間のデータ送信ができません。これらの課題について、出版界との協議がこれから必要になるといえます。

「放射線医学の最新の進歩～分子イメージングから重粒子がん治療まで～」

独立行政法人放射線医学総合研究所理事長　米倉　義晴

複数の治療法組み合わせ

はじめに

放射線について放射線には、物理的性質により電磁波（X線、γ線）と粒子線（α線、β線、中性子線）の二つに分類できます。

どちらも電離能力を持ちますが、前者は高エネルギーを持つ電磁波で人体を通過するのに対し、後者は高速粒子の流れであるため質量があり、ある距離で止まります。

そのため、エネルギーの強さを調節することで局所的に作用させることができます。

分子イメージング技術の発展

分子イメージングとは、生体内におけるさまざまな分子が関与する事象を，バイオマーカーを用いて画像として可視化する技術のことです。

生体画像医学の発展が開発され、さらに分子生物学の発展により生体機能を遺伝子レベルで解析する技術がもたらされました。これらの技術を組み合わせることにより、分子レベルの異常に起因する多くの病気の診断や治療法の開発が期待されます。

放射線によるがん治療

日本の放射線治療は、以前は敬遠されていましたが、現在は患者に優しい治療として認められ、多くの悪性腫瘍で早期がん治療の第一選択となりました。その要因として、他方向からピンポイント照射、粒子線利用などによる標的への線量の集中、そして粒子線、分子標的薬剤の使用などによる強い生物作用の結果、放射線によるがん治療が高度化したこと、が挙げられます。

一方で、副作用を避けるためにがんの高度診断も必要になりました。次世代のがん診療は、複数の治療法を組み合わせ治療法の最適化が目標であり、そのためにはがんの早期診断法の確立、治療効果と副作用の予測が重要です。

重粒子治療について

重粒子線治療の特徴は、高い線量集中性と強い生物作用を持つことであります。そのため、より高度ながん治療が可能になると予想されます。

放医研では、1984年に世界に先駆けて重粒子線治療の開発に取り組み、HIMACという重粒子線がん治療装置が開発され、現在は4000例を超える実績があります。全国に普及させるために、装置の小型化が取り組まれています。

他の放射線治療に比べて副作用が低く、大腸がん再発例の治療成績において、手術と同程度の5年生存率という記録があります。

すべてのがんに有効なわけではありませんが、境界が明瞭かつ手術で切除困難ながんに対しては重粒子線治療が適応します。現在は頭頚部のがん、肺がん（非小細胞型）、肝臓がん、骨や筋肉のがん、直腸がん術後再発において先進医療として承認されています。

他に脳腫瘍や食道がん、膵臓がん、及び子宮がんについて臨床研究中であり、今後は適応を増やしていくことが目標です。

● 支部だより

講演は高橋、長田両教授

先端医療振興財団の井村理事長が特別講演

【神戸】平成21年2月11日（水・祝）、兵庫県医師会館において学術講演会及び神戸支部総会が開催されました。参加者は80名近くになり、とても大きな会でした。

神戸支部長の吉田耕造先生のご挨拶で会は始まり、最初に京都大学大学院医学研究科臨床神経学教授の高橋良輔先生のご講演がありました。演題は「パーキンソン病はどこまでわかったか?」で、パーキンソン病の臨床の最新情報などを話してくださいました。

現在、ドーパミントランスポーターやドーパミンレセプターの、核医学を用いたイメージングにより客観的にパーキンソン病が診断できること、新しい治療法として、外科的処置として視床下部に電気ショックを与えるDBS(deep brain stimulation)という方法があることなどを、画像を用いて詳しく説明してくれました。また、パーキンソン病の病因について、α-シヌクレインなどの蛋白質の異常蓄積によるという説が濃厚であるとおっしゃっておられました。最後に「先生が退官されるまでにパーキンソン病の解明、治療は可能になるか」という質問に対して、解明は可能であろうと答えておられました。

次に、特別講演といたしまして、先端医療振興財団理事長の井村裕夫先生により、「神戸医療産業都市構想10年の歩み」という題目で講演が行われました。この都市計画の基本的な説明があり、アポトーシスが起こらないとリンパ球の異常増殖や癌化、自己免疫疾患などが生じ、逆にアポトーシスが起こりすぎると劇症肝炎などで個体そのものが死んでしまうこと、アポトーシス細胞の貪食においてマクロファージの役割を担っていること、そのDNase Ⅱが欠損した場合、マクロファージの活性化によりIFNβが大量に生成され、発生後にDNase Ⅱが欠如した場合はTNFαの生成によりリウマチ性関節炎が引き起こされることなどを、丁寧に話してくださいました。

講演会終了後には第一楼に場所を移して引き続き総会が行われました。

まず神戸支部長のご挨拶に始まり、物故会員の先生方に黙祷を捧げ、講演会講師挨拶、菊地晴彦先生叙勲のお祝い、新入会員・初参加会員の紹介、芝蘭会雑誌部学生近況報告、会計報告と続いた後、乾杯の音頭とともに懇親会が行われました。

当日は京都で北徹先生の退官式が行われておりましたが、その後、懇親会に駆けつけてこられました。

会では、北先生の挨拶、高橋先生による京都大学医学部の現状のお話、福引などがありました。

私たち雑誌部学生も恐れながら現医学部カリキュラムについて少し話をさせていただきました。

当日は京都市構想10年の歩みす。まず、アポトーシスいとリンパ球の異常増殖や癌化、自己免疫疾患などが生じ、逆にアポトーシスが起こりすぎると劇症肝炎などで個体そのものが死んでしまうこと、アポトーシス細胞の貪食においてマクロファージ

和歌山支部総会での学術講演

総会参加者らによる記念撮影

大学の近況や心不全研究

藤田教授が報告と発表

【奈良】平成21年2月28日（土）、奈良ホテルにて平成20年度芝蘭会奈良支部総会が開催されました。

出席者は23名の予定でしたが、残念ながら2名の方が体調を崩されたそうで21名の方が参加されました。

会場では、非常に温かく出迎えていただき、われわれ学生も緊張することなく溶け込むことができました。

ホテルの周りは自然に囲まれており、心の落ち着く場所であり、また駅との間には奈良公園があり、鹿を見ることもできました。

幹事の楠原健嗣先生のもと、会が始まり、まず今年から奈良支部の会長に就任された松村忠史先生のご挨拶がありました。

松村先生は、京都大学を昭和43年に卒業されています。先生がおっしゃっていたことの中で特に印象深かったのは、総会に出席している若い先生が少ないということでした。

支部総会運営の一番の目的は京都大学のOB会として、先輩・後輩の親睦を深めることにあるとされていましたので、できるだけ若い先生方にも出席してもらいたいとのことでした。

その後、大学から招かれた京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の藤田正俊教授による講演がありました。

講演の内容としては大きく二つに分かれており、「大学の近況報告」と「心不全の病態、治療の新たな展望」となっていました。

まず、京都大学の現在の運営体制、がんプロフェッショナル養成プラン「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」、最近完成した新病棟「積貞棟」について述べられました。

積貞棟は任天堂の山内氏の寄附により建てられた、主にがん治療を目的とした病棟だということです。

次に講演の主題となる「心不全患者は右側臥位を好む」という研究結果について述べられました。

心不全とは、左室機能不全→鬱血・浮腫→運動能力低下→不整脈という流れの症候群です。

その治療法としては重症の場合から順に、心移植・補助循環・血管拡張薬・硝酸薬・利尿薬・ジギタリスでしたが、現在では新たに、ホスピス・チーム医療・心室再同期療法なども取り組まれているようです。

研究目的は「慢性心不全患者の好む睡眠姿勢」と「右側臥位・左側臥位・仰臥位をとったときの比較」であり、「心臓自律神経活性を是正するために右側臥位をとるのであり、血行動態を改善するための自己防衛反応である」という結果が得られたそうです。

教授はこの内容を、医学の知識をほとんど持ちあわせていないわれわれ学生にも理解できるように、そして心臓の専門家の先生方の興味も引きつけられるように大変わかりやすく説明してくださいました。

その後、隣の部屋で懇親会が始まりました。

昭和29年ご卒業の田中敬正先生の音頭により全員で乾杯したあと、参加されている先生方の近況報告を兼ねたご挨拶がありました。

懇親会では、いろいろな先生方にお声をかけていただき、将来のことや当時の学生生活についてさまざまなお話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。そして会は終始盛況となり、和やかな雰囲気のなかでお開きとなりました。

最後に、このような貴重な会に参加させていただきありがとうございました。

（文責：2回生　中村有輝）

形成外科の最新手技など

鈴木教授が学術講演

【和歌山】平成21年2月22日（日）和歌山の「ホテルアバローム紀の国」にて芝蘭会和歌山支部総会・懇親会が日本赤十字社と共催で行われました。また、それとともに学術講演会が行われました。

学術講演会では和歌山支部長・小西裕先生の開会のご挨拶のあと、京都大学大学院医学研究科形成外科学教授の鈴木茂彦先生が、「美しい皮膚を取り戻すために―形成外科の最新の手技から再生医療の応用まで―」という演題で講演されました。その内容を簡単に紹介させていただきます。

1．ケロイドについて

形成外科とは傷や変形をきれいに治すことを目的としている。そのなかで傷には肥厚性瘢痕とケロイドの両者があり、これは非常に見分けにくい。ケロイドは内的要因による腫瘍的変化で治療が少々困難である。しかし、ほとんどの場合が肥厚性瘢痕であり、これは異物が原因で起こることである。肥厚性瘢痕が起こらないようにするためには感染・異物をなくし、死腔を減らし、十分に止血することが大事である。

2．新しい技術について

マイクロスコープを用いて行う手術であるマイクロサージェリー、血行動態に基づく新しい皮弁、広範囲な皮膚・軟部組織欠損の修復法の一つであるティシューエキスパンダー、レーザー治療などについて説明されていました。

3．乳房再建について

乳房再建には一期的再建と二期的再建の二つがある。一期的再建とは、一度に乳房を切除し、再建までしてしまう方法であり、二期的再建とは乳房の切除のあと期間をおいて再手術をする方法である。一期的再建には、回数が少なく心理的ダメージが少ないという特徴がある。対して二期的再建には、再建方法を十分に議論でき、また一度切除した状態を患者が見られるので対比的に満足度を得やすいという特徴がある。

4．再生医療について

皮膚の三次元再生は難しい。皮膚には表皮と真皮があり、真皮には弾性繊維、毛、汗腺、脂腺、毛嚢などからできている。培養表皮は3T3フィーダーレイヤー法などでできるのだが、真皮層がなければ生着しない、日数・コストがかかる、生着しても表皮層にすぎないので皮膚ではない、などの問題がある。

足場のみ、たとえばペルナックを使うという方法もある。これは投与が難しいという欠点がある。足場に繊維芽細胞を培養するという方法もある。自己血清を使用すると創傷治癒効果が上がる。しかし、コストとリスクがベネフィットを超えないという欠点がある。他にもペルナックコラーゲンスポンジを用いる方法もある。

講演の後、参加された先生方による質疑がなされ、鈴木先生は質問に丁寧に対応されていました。その後、2Fの鳳凰の間から4Fの羽衣の間へと場所を変えて、懇親会が行われました。

記念写真を撮り、続いて京都大学医学部、医学研究科の現状についてのご説明がありました。

そして、渡辺先生が乾杯の挨拶をされ、和やかな雰囲気で食事が始まりました。さまざまな先生方が僕たちに料理を勧めていただいたり、気さくに話しかけてくださり、特に病院の人不足や低給与の現状など、将来医学に関わる私たちにとって興味深い話をしていただき、とても楽しい取材でした。

（文責：2回生　畑野翔太郎）

21年度事業計画など承認

芝蘭会臨時総会と理事会・評議員会

会長に光山医学部長を選任

平成21年3月14日(土)芝蘭会館別館に於いて芝蘭会理事会・評議員会及び臨時総会が開催された。

臨時総会の議案は、(1)平成21年度事業計画(案)及び収支予算書（案）について、(2)理事（会長）及び評議員の選任について、(3)新公益法人制度についての3件で、議案(1)については、医学教育活動等への助成や学生のクラブ活動について、熱心な議論の上、原案通り承認され、議案(3)については、定款の変更案をもとに活発な意見の交換の上、公益法人のメリット・デメリットについてさらに検討を加えるなど、継続審議となり、議案(2)については、光山正雄医学研究科長・医学部長が会長に選出され（任期は平成21年3月15日から3年間）、島根県中央病院の中川正久先生が評議員に選出された。

議案の審議終了後、塩田会長から「京都大学医学部教育研究支援基金（KMS-FUND）」の寄附申し込み状況について報告があり、了承された。

熱心に議論が交わされた総会

芝蘭会費納入は自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引落し」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止や会費納入率のアップにも繋がります。

ぜひ、ご利用いただきたくお願い申しあげます。

手続き等については、芝蘭会事務局（TEL 075-751-2713）までお問い合わせください。

芝蘭会総会のお知らせ

平成21年度通常総会を下記のとおり開催します。

開催には会員の10分の1以上の出席（委任状を含む）を要しますので、お手数ながら、ご出席願えない場合は、委任状に各議案に対する賛否をご指示の上、記名捺印願い、総会日の5日前までにご返送くださいますようお願いいたします。

記

日　時　平成21年6月27日（土）午後3時より
場　所　京都市左京区吉田牛ノ宮町11－1　芝蘭会館別館
議　案　1. 平成20年度事業報告及び収支決算について
　　2. 平成21年度事業計画及び収支予算について
　　3. 副会長、評議員の選任について
　　4. 新公益法人制度について

芝蘭会会員名簿

68回・2008（平成20）年版 芝蘭会会員名簿 刊行！

名簿作成にご協力いただき、ありがとうございました。

平成20年12月に芝蘭会会員名簿を刊行いたしました。名簿作成にあたり、会員の皆様から快く異動情報等をお寄せいただき感謝申し上げます。
会員名簿をご希望の方は、芝蘭会事務局(075-751-2713)までお問い合わせ下さい。

会員名簿：A4判、847頁
会員頒布代：一部　5,250円（消費税を含む）
（但し、会費納入者に限る。その他は10,500円）
送　　料：700円

人事異動

発令年月日	氏名		異動内容
H21.1.15	平田　敏樹	辞職	器官外科学呼吸器外科学准教授より 宇治川病院副院長へ
H21.1.16	大久保憲一	昇任	器官外科学呼吸器外科学講師より同准教授へ
H21.1.31	玉木　敬二	併任	総合解剖センター長 教授（法医学）
H21.1.31	真鍋　俊明	併任解除	総合解剖センター長 教授（発生病態学）
H21.2.1	石﨑　達郎	採用	東京都老人総合研究所より 健康管理学健康情報学准教授へ
H21.3.1	宮原　亮	昇任	器官外科学呼吸器外科学助教より同講師へ
H21.3.28	西田　光男	死亡	感覚運動系外科学口腔外科学講師
H21.3.31	内山　卓	定年退職	内科学血液・腫瘍内科学教授
H21.3.31	中畑　龍俊	定年退職	発生発達医学発達小児科学教授
H21.3.31	林　拓二	定年退職	脳病態生理学精神医学教授
H21.3.31	高橋　玲	辞職	腫瘍生物学腫瘍生物学准教授より 同志社女子大学教授へ
H21.3.31	喜多美穂里	辞職	感覚運動系外科学眼科学准教授より 兵庫県立尼崎病院眼科部長へ
H21.3.31	三木　幸雄	辞職	放射線医学画像診断学・核医学准教授より 大阪市立大学教授へ
H21.3.31	中村英二郎	辞職	器官外科学泌尿器科学講師より ハーバードメディカルスクール ダナファーバーがん研究所へ
H21.3.31	仁科　健	辞職	器官外科学心臓血管外科学講師より 国立病院機構長良医療センターへ
H21.3.31	菊田健一郎	辞職	脳病態生理学脳神経外科講師より 福井大学医学部教授へ

発令年月日	氏名		異動内容
H21.4.1	福山　秀直	併任（再任）	高次脳機能総合研究センター長 教授（高次脳機能総合研究センター）
H21.4.1	斎藤　通紀	採用	理化学研究所より生体構造医学機能微細形態学教授へ
H21.4.1	縣　保年	昇任	感染・免疫学免疫細胞生物学助教より同准教授へ
H21.4.1	原田　浩二	昇任	環境要因学環境衛生学講師より同准教授へ
H21.4.1	藤原　浩	昇任	器官外科学婦人科学・産科学講師より同准教授へ
H21.4.1	髙田　泰次	配置換	外科学肝胆膵・移植外科学准教授より 附属病院臓器移植医療部准教授へ
H21.4.1	林　克彦	採用	ケンブリッジ大学より 生体構造医学機能微細形態学講師へ
H21.4.1	辻川　明孝	昇任	感覚運動系外科学眼科学分野助教より同講師へ
H21.4.1	三和　千里	採用	武田病院医師より器官外科学心臓血管外科学講師へ
H21.4.1	荒井　秀典	昇任（配置換）	内科学加齢医学講師より 人間健康科学系専攻教授へ
H21.4.1	足立　壮一	昇任（配置換）	発生発達医学発達小児科学講師より 人間健康科学系専攻教授へ
H21.4.1	石津　浩一	昇任（配置換）	放射線医学画像診断学・核医学講師より 人間健康科学系専攻准教授へ
H21.4.30	賀本　敏行	辞職	器官外科学泌尿器科学准教授より 宮崎大学泌尿器科学教授へ
H21.5.1	宮本　享	採用	国立循環器病センター部長より 脳病態生理学脳神経外科学教授へ
H21.5.1	木村　剛	採用	内科学循環器内科学准教授より同教授へ
H21.5.1	杉江　知治	昇任	器官外科学乳腺外科学助教より同准教授へ
H21.5.1	磯田　裕義	昇任	放射線医学画像診断学・核医学助教より同講師へ

会員訃報　（敬称略）　謹んでご冥福をお祈りいたします。

井街　譲	（昭和8年卒）	平成21年1月15日	ご逝去
高橋　敬道	（昭和16年12月卒）	平成21年2月25日	ご逝去
伊賀　郁雄	（昭和17年卒）	平成21年2月27日	ご逝去
緒方　豊	（昭和17年卒）	平成20年11月8日	ご逝去
小林　恒雄	（昭和17年卒）	平成21年1月1日	ご逝去
吉武　泰男	（昭和17年卒）	平成21年1月19日	ご逝去
重田　精一	（昭和20年卒）	平成21年3月28日	ご逝去
石田　一郎	（昭和21年卒）	平成21年1月27日	ご逝去
市川　季男	（昭和21年卒）	平成21年4月30日	ご逝去
松原　恒雄	（昭和21年卒）	平成20年12月8日	ご逝去
武山　正	（昭和22年卒）	平成21年4月6日	ご逝去
吉山他喜雄	（昭和22年卒）	平成21年2月6日	ご逝去
滝野　純治	（昭和23年専卒）	平成21年1月18日	ご逝去
松田　哲夫	（昭和24年卒）	平成20年12月11日	ご逝去
平井　賀久	（昭和24年専卒）	平成20年7月26日	ご逝去
由良　二郎	（昭和24年専卒）	平成21年1月10日	ご逝去
浅野　博嘉	（昭和24年薬卒）	平成20年9月29日	ご逝去
佐井　重文	（昭和26年卒）	平成21年1月27日	ご逝去
国枝　義治	（昭和26年専卒）	平成21年4月5日	ご逝去
山口　寿雄	（昭和35年卒）	平成20年9月	ご逝去
矢追　義人	（昭和35年薬卒）		ご逝去
池袋　英一	（昭和37年卒）	平成20年2月18日	ご逝去
大矢　忠行	（昭和52年卒）	平成20年11月15日	ご逝去
西井　憲夫	（教室会員 内科3）	平成18年	ご逝去

芝蘭会報編集委員会
委員長　中尾一和
委　員　斎藤信雄、岩田征良、豊國伸哉、山田圭介、園部　誠、阿部　恵
芝蘭会雑誌部
顧　問　中尾一和
部　員　奥谷祐希、中島宏徳、濱谷康弘、橋本大輝、河北美緒（以上6回生）
尾市雄輝、亀井純（以上5回生）
植木一仁、武井玲生仁、水野裕基、福永有伸、畑玲央（以上4回生）
合田直樹、福田宗寛、勝島将夫（以上3回生）
橋本健太郎、中村有輝、山田直生、畑野翔太郎、前田峻宏（以上2回生）
芝蘭会事務局
事務局長　山田　均
総務課長　秋山和美
管理課長　松本　悼

原稿募集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場であります。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。

芝蘭会報　編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。
（FAX 075-752-4015）